

会報

かけはし

(題字 支部長 神山則幸)

平成31年2月1日

第 50 号

発行者
神山則幸

地域の未来のために

教員・行政
と四十二年間
近隣の市に勤
務してきた。

振り返って

みたとき、居住している地域に仲間がほとんどいないことに気がついた。丁度、地域の「コミュニケーション推進協議会」(以下コミ協)委員の公募があり、応募し書類審査を経て委員としての活動を認められた。その組織は自治会をはじめ地域の各種団体から選出された者で構成され、主たる目的は「ふれあい豊かな地域社会を創造する」とある。このコミ協には総務、環境、福祉、青少年の四部会があり、それぞれ特色ある活動を展開している。私は福祉部会の副部長として活動している。その活動については、県会報一四四号「一人一

副支部長 加藤 慶隆

言」で述べているので省く。今回はコミ協のいわばお祭り、毎年十月中旬に開催する「地域ふれあい環境フェスタ」―地域の未来のために―の特色ある取組について紹介する。それは、地区内の三小学校、一中学校の環境活動の発表である。それぞれ「ゴミ問題」「河川の浄化」「地球温暖化」「地域の自然環境」等のテーマのもと二十分

黒檜山登山

退職して十
五年の歳月が
流れた。平成
三十年九月三
十日、念願の

黒檜山(標高一八七七m)に登ることができた。黒檜山は、上毛三山の一つである赤城山の主峰であ

程度発表してくれることである。更にこのイベントのボランティアとして地区内の高校生二十名、近郊の県立大学の学生五名がそれぞれのブースで活動してくれたこと、また高校の文化部の一つがブース(今年は天文部)を開いてくれることが教職に携わってきた私にとっては誇らしく思った。

私のこのコミ協活動も十一年を超え、地域にも多くの仲間を得ることができた。この度、過日開催の「市制施行六十周年記念式典」に招待され、「多年にわたり住民自治の振興に貢献」として顕彰者名に名を連ねさせていただいた。

この受賞を一つの糧として今後とも「地域の未来のために」活動を続けていきたいと考えている。

草加班 市村 勝

る。念願の登山と書いたのは、今回こうして二千メートル級の山に登るのは、実に三十数年振りだからである。学生時代や現役の頃は谷川岳をはじめ、南アルプスの北岳、八ヶ岳、富士山なども登った。上州沼田で育った私は、子供の頃からよく山登りをした。小学校

六年生の秋の遠足では、沼田小学校から子持山(標高一二九六m)まで、片道四時間の距離を全て徒歩で登った。今思えば昭和三十二年当時の学校行事はそれが当たり前であり、まさに「遠足」であった。

退職して八年目の六十八歳の時心臓弁膜症の手術を受け、その時医者から、激しい運動や飲酒、怪我などで血を流すような仕事はしないようにと指導されたのである。心臓のこともあるが、何とか登りたいという意欲の下、登山に備えて、九月に入ってから、約六キログラムの荷を背負い、四キロの距離を歩いて訓練した。しかし実際の山道となると、そう簡単にはいかない。登山口は花見ヶ原キヤンプ場と定め、頂上まで四キロ、標高差六百メートル、地図上では二時間半の行程である。年齢と共に落ちた体力は如何ともしがたく、四時間近くかかって登頂できた。途中息が切れ、あきらめて引き返そうと思ったが、あと少しだからと続けられたのは「気力」である。体力は確実に落ち、気力だけが頼りの登山であった。七十三歳の登山とは、こんなにも困難なことだと身をもって感じた次第である。

会員短信

実り多き秋

川口班 新海 今朝巳

ここ数年、秋の季節が何故か短くなってしまった気がする。

寒さが和らいだと思うと猛暑に見舞われ、過ごしやすいつと感じる頃には寒くなる。これも地球温暖化の影響であろうか。

現在、文部科学省への『文教施策と予算に関する要望活動』に関わりを持つている。要望内容は多岐にわたるが、成果はどうか。国の動向が気になるところである。

秋を感じにくいこの時期に、せめて仕事上での『実り多き秋』を実感したいものである。

一瞬の出来事を愛でること

川口班 大沢 春樹

退職して九年目、来年は、古希を迎えます。昨今、残された人生、自分の想いを大切に、価値ある時間を過ごしたいと思っています。

今は、美しい自然に囲まれ趣味を活かし、自由気ままに時を過ごしています。春には、庭に咲く花を楽しみ小鳥の囀りを愛で。夏には庭の雑草と格闘し葉のそよ音を愛で。秋には、色鮮やかな枯葉を踏みしめる音を愛で。冬には、白い静寂な凜とした空気の中で林間の雪山から吹く風の音を愛でる。そんな「一瞬の出来事」を大切に日々生きています。

合唱を楽しむ

朝霞班 坂田 博明

定年退職が話題になったある日、家内が男声合唱団への参加を勧めてきた。

早速見学に。三十人の爺さん達が若々しい声と笑顔で唱っている。聞き覚えのある曲でハーモニーもなかなかのもの。指導者もユーモラスで楽しい。即、入団を決めた。これがきっかけとなり、川越の喜多院や日本武道館での演奏、ウエスタ川越での市民オーケストラとの共演などを楽しんでいる。始めて十余年、うたの世界が広がっている。

再び挑戦

川口班 坂本 大典

定年退職をしてやれやれゆつくりと人生を振り返り、のんびりこれから残りの人生をと思っていたのも束の間。川口市議会議員立候補の話が飛び込んできて、ある方達からの強い要請により挑戦することに。皆様方からの支援により

まして当選させていただいて早四年が経過いたします。その間、真つすぐに突っ走ってききました。教育の課題は益々増すばかり、無尽蔵に広がり続けています。憂うるばかり、老体に鞭を打ち更なる再挑戦に向かうのみか、やらねば。

趣味を楽しむ

蕨・戸田班 林 尚徳

後期高齢者という呼称にも慣れてきた。退職以降私の生活リズムは何も変わらない。▼合唱は男声と混声。発声法や息回しはこれぞ健康法と心得ている。今では一日中唱つても声は大丈夫。六月の演奏会を控え、皆暗譜できない悩みをもっている。▼絵も油絵と気楽なグループに所属（水彩・額づくりなど）。こちらも結構忙しい。

▼ゴルフ。これはつらい。楽しみであるのに体が痛い。上達したりうまく表現したりできないもどかしさ。だからまだまだとやる気になる。

古都を訪ねる

草加班 吉田 晃

退職してから、現役時代に修学旅行で生徒を引率した京都・奈良に行くようになった。娘と行った京都は喫茶店巡りであった。いろいろな喫茶店のサンドイッチを食

幼保小中を一貫した草加の教育

草加市教育委員会教育長

高木 宏幸



草加市教育委員会では、中学校卒業までに育ってほしい姿を『自ら学び、心豊かに、たくましく生きる草加っ子（十五歳の姿）』（以下、

目指す「草加っ子」とした。これは、予測困難な未来社会において課題に直面した際、自らの可能性を発揮し、よりよい草加の作り手となる資質・能力が育まれた姿である。目指す「草加っ子」の具現化に向けて、子ども教育の連携推進の取組を核として様々な施策を展開している。

平成二十五年度から、学校段階等間の交流・連携に取り組んできた。成果として小一・中一の学校生活や学習に落ち着いて取り組む児童生徒の姿が見られる等がある。一方、この取組が、小学校教育全体・中学校教育全体の充実につながっていないといった課題が明らかになった。

このことから、学校段階等間のつなぎの部分を含め、〇歳から十五歳までの子どもの育ちを一つの

べて廻る不思議な京都であった。妻と行った奈良は、レンタカーを借り今まで巡ったことのない神社仏閣をゆっくり周り、甘樫丘に登り大和三山や奈良盆地を眺めながら飛鳥時代に思いを馳せるなど奈良の魅力に魅せられた旅であった。今まで知らなかった京都・奈良をこれからも楽しみたいと思う。

保護司として生きる

藤・戸田班 三枝 求

退職・退任して五年。今は、足立区保護司会の保護司として充実した日々を送っています。

薬物犯罪や非行を経て私の元へやってくる青少年たち。私の仕事は彼らの保護観察や生活環境の調整であり、面接や訪問が中心ですが、研修や啓発活動で学校や地域の人々と交流を深めています。

「東京県民」と呼ばれ、永い間地元根を持てなかった私が、ようやく自分の住む地域に根を生やすことができるようになりました。七十六歳の定年まで元気に頑張ります。

微力ながら

朝霞班 内田 明

定年退職後は様々な仕事を頂きましたが、現在は私立幼稚園長として三年目です。朝早くから、パ

ワー溢れる子供達との対応、事務処理、大工仕事や色々な力仕事等の毎日です。夜と土日は趣味の剣道の稽古や剣道連盟・合唱連盟・文化協会等の会合ありと、微力ながら年中頑張っております。

しかし、先輩の近況を読むと、もっと忙しい毎日を送り活躍されている方が多く、弱音を吐いている場合ではないと気合を入れ直しています。

やってよかった手術

川口班 大野 光雄

水上少年自然の家では中学校の自然教室が終わり、週末の一般客の受け入れが始まった。ここでの勤務も二年目だ。単身生活にも慣れ、掃除・洗濯を苦にすることもなくなったが、健康には気を配っている。そういえば、八年前に白内障の手術をした。視力が回復してコンタクトレンズや眼鏡が不要になり、全部捨てた。二年前には学生時代から四十年以上患っていた腰椎椎間板ヘルニアの手術にふみきった。おかげで日常生活が楽になった。やってよかったと思う。

幼児の成長に喜びを感じて

川口班 小沼 和美

園長二年目の今年十一月。川口市教育委員会委嘱研究発表会をさ

せていただきました。校長先生方のお力添えをいただき、小・中学校からも多くの先生方に来ていただきました。感謝申し上げます。入園当時は泣いて保護者から離れなかった幼児が、年長組の今では、登園すると保護者を振り返ることなく友達の方に走っていくようになります。幼児の成長には、毎日驚かされています。私と一緒に南平幼稚園に入園した幼児が、来年三月に卒園を迎えます。

感謝と笑顔で明るい人生

草加班 須山 恵子

退職後、ピアノレッスンと書道の専門学校に通い、これまで出来なかった自分の時間を楽しんだ。教える側から教えられる側の世界はなんとたのしいことか。感謝と素直な気もちにひたる時間を過ごすことが出来た。また、「スマイルトレーナー」という資格も取得した。幸せだから笑うのではなく、幸せになるために笑うという理念のもと、笑顔をトレーニンングできる資格だ。夢は、近くのコミユニティで「スマイル教室」を開き、笑顔で世の中を明るくしたい。



スパンとしてとらえ、平成三十年代から市内全中学校区において幼保小中を一貫した教育を開始した。各中学校区では、「目指す子どもの姿」の実現に向けて、園・学校、家庭、地域の代表者からなる連絡協議会を組織するとともに、○歳から十五年間の子どもの育ちにふさわしい保育・教育課程を編成・実施している。

教育委員会では、幼保小中教育指針を始め様々なプログラムを作成し、支援を行っている。その一つに『草加市幼保小中一貫教育標準カリキュラム』がある。全ての教科等のスタートに幼児期の生活や経験を位置付け、中三までの学びのつながりを示していることが特長である。さらに、幼児期の生活や経験がより充実したものとなるよう子ども教育連携支援員（幼児教育アドバイザー）を配置し、市内の保育の質向上に向けて訪問支援を行っている。

これらは、新しい学習指導要領等の理念の一つである学校教育における資質・能力の一貫性に資する取組であり、『草加の教育の一步前進』を支える取組であると考えている。

支部だより

教育推進協議会

盛会裡に終わる

平成三十年度北足立南部支部現職・退職校長教育推進協議会は十一月二十二日(木)川口市立並木公民館に於いて、

現職小・中学校長四十二名、退職校長四十九名、来賓七名、保護者五名の参加を得て開催された。

開会に当たり、

川口市の市長

奥ノ木信夫様から、本教育推進協議会に対し、励ましの言葉と期待を寄せているとのメッセージを頂いた。また、南部



教育事務局所長宮尾孝様から本年度の県教育局の方針や

現下の教育情勢とその対策等にも触れたご挨拶を頂いた。さらに、県退職校長会副会長栗田憲昭様からもご挨拶を頂いた。

推進協議会は、

現職校長会を代表して戸田市立笹目



東小学校高橋博美校長、新座市立第四中学校高橋利明校長、退職校長会代表草加細川昭二



元校長より、現下の教育の諸課題について、実践に

基づく貴重な発表があり、その後、

県退職校長会幹事

野本キミ子様から

丁寧な指導講評を

頂いた。



協議会終了後の懇親会では川口市教育委員会学務課長森田吉信様

からご挨拶を頂いた。乾杯後の親密な懇談を通して、現職・退職校長の親睦が一層深まった。

なお、発表内容は「埼玉県退職校長会会報百六十五号」に掲載される。是非、ご一読されたい。

(和田悦男)

ご冥福をお祈りいたします

江口 克己様 (朝霞) 7/27 七十一歳

島谷 文仁様 (川口) 10/11 七十四歳

浅香 正男様 (川口) 11/4 八十六歳

千布 常雄様 (蕨戸) 11/19 九十四歳

倉林 輝雄様 (川口) 12/8 八十五歳

松村 喜作様 (川口) 12/11 八十七歳

池田 要様 (朝霞) 1/6 九十四歳

(1/7現在)

班だより

朝霞班

本年度は、新入会員五名を迎え百十三名の会員でスタートしました。主な事業を紹介します。

◎総会・懇親会



朝霞班総会は、五月六日三十八名の出席を得て開催されました。総会終了後は、参加者三十七名で和やかに親睦を深めました。

◎BBQを楽しむ会

十月三日十二名の参加で実施しました。当日スーパリーにて食材や飲み物を購入し、民間の施設へ和気あいあいと過ごしました。

◎会報『SWAN』

会員が自由に寄稿できる文集として、十一月一日(彩の国教育の日)に『SWAN』第十四号(寄稿者九名)を刊行しました。

◎健康ハイキング

十一月二十日十四名で小江戸・川越散策をしました。「足踏み健

康ロード」のある熊野神社を通り、時を告げる鐘を見て昼食。

その後、伝統的製法に触れることができた松本醤油商店を見学、楽しいひとときでした。



◎その他

平成三十一年一月二十五日、新年もみんなで元気に過ごしましょうと、新年親睦懇親会を予定しています。以上のような活動を通して交流を深めています。(志摩範夫)

あとがき

「かけはし」第五十号をお届けします。「平成」最後の会報となりました。ご多用の中、玉稿を賜りました各位に、心から御礼申し上げます。

教育界の平成時代を顧みますと激動の三十年でした。この間、退職校長会の果たした役割には大きなものがありました。

南部支部では、域内の現職校長の皆様にも、毎回会報をお届けしてきました。今後も現退相互のかけはしとしてご活用いただければ幸いです。(羽富正晃)